

第6回会員向け無料セミナー開催

「知財データの証拠性確保に利用されるタイムスタンプ」

～導入各企業の事例紹介【最新版】

大阪発明協会では、会員サービスの一環として会員が無料で参加できる無料セミナーを企画しておりますが、今回は、昨年度第4回セミナーとして開催し参加者も多数集まり大変好評でありました、ノウハウ保護や営業秘密管理のツールとしてこの1年で俄然注目を浴びる存在となったタイムスタンプの活用をテーマにした「知財データの証拠性確保に利用されるタイムスタンプ」セミナーを、タイムスタンプの導入や普及を推進している株式会社サピエンティストとアマノビジネスソリューションズ株式会社に協力をいただき開催いたしました。

今年度はタイムスタンプのセミナーが2回目ということもあり、参加者数は28名にとどまりましたが、それでも30名近くの参加者を集めたということは、本テーマの関心の高さが窺えるものと思われま



前半は、株式会社サピエンティストの下出一代表取締役より、「技術のブラックボックス化戦略」と題して、知財戦略を進める上で技術（知財）のブラックボックス化のメリット・デメリットについて把握し、対象とすべき技術を明確にすること、そして管理方法を理解して、そのための体制を整え運営することが大切であること、またブラックボックス化を進める際の具体的な管理と運用として、知財の存在を証明するために公証役場やラボノート等と比較した上で、タイムスタンプが有効であることが述べられました。



後半は、アマノビジネスソリューションズ株式会社の山口学係長より、「知財データの証拠性確保に利用されるタイムスタンプ」と題して、昨年度と同様にタイムスタンプの仕組みや存在証明、先使用权確保、社内文書やノウハウ保護のための証拠性確保に至るさまざまなケースにおける、タイムスタンプを導入した各企業の事例紹介を中心に、タイムスタンプの有用性について説明がなされました。また、特許庁が今後推進していくタイムスタンプ保管システムに関する

情報をいち早く公開されました。このシステムは今後さらに情報公開されていくと思われるので、来年度もそのあたりを踏まえたタイムスタンプのセミナーを開催していく予定です。